

よく生きるには
- 一生勉強、一生青春 -

経済同友会
林 明夫

《先日お送り頂いた皆様のご質問に QandA の形で答えさせていただきます》

Q 1 人に好かれるにはどうしたらよいですか。

A (1)自分でされていやなことは他人にしないこと。相手の感情を思い接することが大切かと考えます。

(2)自分は自分のことを大切に思うと同じように、自分以外の人も自分自身のことを大切に思っているということを理解すること。

(3)自分以外の人「言葉」「考え方」「大切にするもの」「今までどのように生きてきたか」「性別」「年齢」「今どのように生きているのか」「宗教」「皮膚(ひふ)の色」「体型(身体つき)」などを否定したり、非難・批判しないこと。あるがままに認めること。
《悪口は口にしないことです》

(4)自分以外の人「よさ」「素晴らしさ」「がんばり」「努力」「生き方」は素直に認め、尊敬すること。「素晴らしいね」「よくがんばったね」などと丁寧な言葉で素直に表現すること。
*自分自身のよさに気付き、伸ばすこと。自分自身を大切にすること。

(5)「会った人は皆友達」「我(自分)以外は皆師(先生)」「よいことをして忘れる」

(6)「躰(しつけ)」を身につけること。
美しい立居振舞い(たちいふるまい) - 「服装第一」 -
敬語表現含む言葉遣い(ことばづかい) - 「あいさつ第一」 -

Q 2 どうすれば良い人になれますか。

A まずは、「社会のルールの中でプレイ(行動)すること」が大切です。

(1)そのためには「社会のルールとは何なのかを知る」努力をすること。

(2)社会の最低限のルールは「法律」によって明らかにされています。
法律を知り、法律を守ること、法律に反しないこと。

刑法 第 199 条 人を殺した者は、死刑または無期若(も)しくは 5 年以上の懲役(ちょうえき)に処(しょ)する。(殺人罪)

第 204 条 人の身体を傷害した者は、15 年以下の懲役または 50 万円以下罰金に処する。(傷害罪)

第 208 条 暴行を加えた者が人を傷害するに至らなかったときは 2 年以下の懲役若しくは 30 万円以下の罰金または拘留(こうりゅう)若しくは理科料に処する。(暴行罪)

第 235 条 他人の財物(ざいぶつ)を窃取(せつしゅ)した者は、窃盗(せつとう)の罪として、10 年以下の懲役または 50 万円以下の罰金に処する。

(窃盗罪)

第 236 条 暴行または脅迫(きょうはく)を用いて他人の財物を強取(ごうしゅ)した者は、強盗(ごうとう)の罪とし、5 年以上の有期懲役に処する。

(強盗罪)

民法 第 1 条[第 1 項]権利の行使及(およ)び義務の履行(りこう)は、信義(しんぎ)に従い誠実(せいじつ)に行わなければならない。

(信義誠実・しんぎせいじつ)

[第 2 項]権利の濫用(らんよう)はこれを許さない。

(権利濫用・けんりらんよう)

第 90 条 公の秩序(ちつじょ)または善良(ぜんりょう)の風俗(ふうぞく)に反する法律行為は、無効(むこう)とする。

(公序良俗・こうじょりょうぞく)

第 709 条 故意(こい)または過失(かしつ)によって他人の権利または法律上保護される利益を侵害(しんがい)した者は、これによって生じた損害(そんがい)を賠償(ばいしょう)する責任を負(お)う

(不法行為による損害賠償)

(3) 自分自身を律しながら活動する能力を身につけること「自律的に活動する能力」

「志(こころざし)を高く持つ」こと

「夢をもつ」こと

「自分自身の行動をコントロールする力を身につける」こと

(4) 人様にお役に立つ、人様にお役に立つことで社会の役にも立つ。

(5) そのためには読書を。本を深く読み、思慮深さ(しりよぶかさ)を身につける。「伝記」が一番。

(6) 新聞をよく読み、自分で考える力、批判的思考能力(ひはんてきしこうのうりょく)を身につけること。

(7) よく生きるとは何か、よく生きるにはどうしたらよいか考え続けることは尊いことだと思います。

Q3 人は何のために生まれて、何のために生きていくのか聞きたいです。

A (1) 人は死んだあと後の世に何が残せるのかを考えることが役に立ちます。内村鑑三(うちむらかんぞう)という人は、「後世へ最大遺物(こうせいへのさいだいいぶつ)、デンマルク国の話」(岩波文庫、岩波書店刊)の中で、人は5つのものが残せると教えて下さっています。

お金(お金を残して、いろいろなことに使ってもらうこと)

事業(仕事を残すこと)

著作(作品を残すこと)

教育(人々に教えること、教え子を残すこと)

生き方(あの人はあのような生き方をしたのだということ)

(2) よく生き、自分自身のよさを育て、伸ばし、充実した毎日を過ごすため。人様に役に立つことをして、人様に喜んで頂くため。人様に役に立つことで、社会のお役にも立つため。

(3) 人生は長い。「一生かけてこのようなことがしたい」「このような生き方をしたい」と少しずつでもよいから自分の力で考え、そのために一生学び続けよう。

「教育ある人とは一生勉強し続ける人」

「一生勉強、一生青春」

「いつまでも若々しく生きる」

Q 4 今まで一番いやだったことは何ですか。

A (1) 身近な人の死

(2) 「健康第一」。事件、事故にあわないように、おこさないように気をつけよう。

(3) 「注意一秒、ケガ一生」

Q 5 どうやったら勉強は楽しくできますか。

A 何のために勉強するのかを自分の力で考え、「自覚」をすること。

(1) 「学ぶ目的」とは

よく生きるためとは

自分のしたいことをするため

自分の就きたい職業に就くため

仕事や社会的な活動をして、人様や社会のお役に立つため

知らないことを知る喜びを得るため

(2) 仕事をする目的とは

生活できるだけの収入を得るため(生活できてよかった、うれしい)

仕事を通して自己実現するため(人様や社会のお役に立ててよかった、うれしい)

(3) 勉強の楽しさを知るきっかけをつかむ。そのためには...

学校での全教科の勉強は、社会に出てすべて役に立つことを知ること

教科以外の学校での教育活動(学校行事、生徒会活動、学級会活動、当番、部活動などすべて)も、社会に出てすべて役に立つことを知ること

家庭学習、学校外の学習も、社会に出てすべて役に立つことを知ること

図書館(図書室)、美術館、博物館、体育館、社会体験施設などを活用すると、勉強の楽しさを知るきっかけをつかむことができる

旅行に行ったり、色々な人と会うこともためになる

(4) 勉強の仕方を身につける

「学び方を学ぶ方法」を身につけること

(5) テストでよい点数が取れる、学校の授業がよくわかる、学校の行事など学校の活動に積極的に参加できると学校での勉強が楽しくなります。

Q 6 勉強の仕方を教えて下さい。

A (1) 勉強には「理解」「定着」「応用」の3つの段階があります。

「うんなるほど」と腑(ふ)に落ちる、納得(なっとく)する段階。これを「理解」の段階といえます。

次に一度「うんなるほど」と「理解」したことをスミからスミまで身につける段階があります。これを「定着」の段階といえます。

最後に、「うんなるほど」と「理解」したことをスミからスミまで「定着」させ、それをうまく用いて、学校の定期試験でよい点数を取ったり、自分の希望する学校の「入学試験」や自分の希望する職場の「就職試験」、自分の希望する国家試験等様々な「資格検定試験」に合格するだけの得点を取る力、つまり「応用力」を身につける段階があります。社会での生活で自由に用いる力も応用力です。これを「応用」の段階といいます。少しずつ説明しますね。

(2) 「うんなるほど」と「理解」するためには...

学校での授業をきちんと受けましょう

(ア) 授業に遅刻・欠席すると「理解」が難しくなります。

(イ) 授業中に眠っていたり、おしゃべりをしたり、他のことを考えていたり、やっても「理解」は難しくなります。(携帯電話も)

(ウ) 忘れ物があると授業がきちんと受けられず、理解が難しい。

(エ) 睡眠不足や空腹、体調がよくないと理解が難しい。「便秘」や「頭痛」、「歯痛」も理解の大敵。

* 「早寝、早起き、朝ごはん」が大事。

「ノート」の取り方も大事

(ア) 授業中大切なことはノートにどんどん取る。

(イ) ノートしたことを、授業後利用しやすいようにまとめる、作り直す。

(ウ) 作った「ノート」を、ゆっくり読んで「うんなるほど」と十分「理解」すること。

教科書を自分で読み「予習」や「復習」をし、わからない語句があったら「辞書」でその意味を確かめ、「ノート」に記録しておくこと。

(ア) 「辞書」は手元に持っていること。

・ 国語辞典

(・ 漢和辞典)

・ 英和辞典

(・ 和英辞典)

* 高校生になったら「古語」辞典も手元におき、折に触れて活用すること。

* 一度使った辞書は、決して手放さず、一生使い続けること。

(イ) 「辞書」を用いて調べた「ことば」や「語句」の意味をノートに記録したら、その意味を正確に覚え、書けるまでにしておくこと。

勉強は一人でもできる。得意な科目は、どんどん「予習」すること。

「予習」するのに遠慮は要らない。

* 「予習は何のためにするのか」

・ わからないところをはっきりさせて授業に臨むために予習は行うもの。

(知ったかぶりをするためにやるのは予習ではありません。)

・ 自分で調べ一つでも多く「理解」してから「授業」に出て、先生からはよくわからないところを真剣に教えて頂く。

・ よく「理解」できたところは友達にも教えてあげましょう。「学びの共同体」を作りましょう。

新年度に新しい教科書を頂いたら得意な科目、興味ある科目だけでも一通り全部読み終えてしまおう。

(3) 一度「うんなるほど」と「理解」したことを「定着」するために、スミからスミまで覚え切る、身につけるにはどうしたらよいか。「定着」するためのやり方には3つあります。

「音読練習」(大きな声を出して何十回も読んでみよう)

「書き取り練習」(正確に何十回も書いてみよう)

「計算・問題練習」(同じ計算や問題を何十回もやり直してみよう)

* テスト範囲について、「教科書」や「ノート」、「問題集」をスミからスミまで覚えてしまおう。

* 「練習は不可能を可能にする」